

不登校の原因を考える ①

新連載

新学習指導要領の解説書に「不登校を問題行動と判断してはならない」「不登校児童生徒が悪いという根強い偏見を払拭し…」「休養（学校を休む）ことが必要な場合がある」という記述があります。文科省の認識が変わっても、世間には不登校の原因は「子どもの性格」「親の育て方」という偏見が、まだまだあります。今回から連載で「不登校の原因」について考えてみます。

文科省（当時は文部省）の不登校の原因の考え方が大きく変わったのは1992年です。「不登校はどの子にも起こりうる」というふうになりました。

■ 25年以上前の古い考え方

それまでは、「不登校は子どもの性格や親の育て方の問題」と考えられていました。そのことを「生徒指導資料第22集」（1998年、文部省当時）で次のようにまとめられています。少し長いのですが、正確に伝えるためにそのまま引用します。

今日、登校拒否と言われる問題が教育課題として認識され始めたのは昭和30年代からである。それから40年もの年月が経過し、その間にこの問題についての考え方は様々に変化してきた。特徴的な考え方として、昭和60年代の初期までは、登校拒否は特定の児童生徒に起こる現象であるとされ、次のような認識傾向が見られたのである。

1. 登校拒否は、本人の性格に起因すると考えられた。不安傾向が強い、適応性にかける、社会的・情緒的に未成熟であるなど、登校拒否を起こしやすい性格があって、それが何らかのきっかけにより登校拒否となるというものがあった。

2. 登校拒否を起こしやすい児童生徒の性格は、家庭に起因すると考えられた。そのため親

の養育態度の改善を重視することが多かった。3. 登校拒否を一種の心の病ととらえる傾向が見られた。閉じこもり・家庭内暴力・昼夜逆転の生活など登校拒否の状態は、精神分裂病・うつ病など精神病の初期症状とみなされる場合があり、その対応には精神科医や臨床心理士などとの連携も必要というものであった。

このように、従来は登校拒否となった児童生徒本人の性格傾向などに何らかの問題があるという認識が一般的であった。つまり、登校拒否は「特定の児童生徒の特有の問題があることによって起こる」と考えられていたのである。（「従来の登校拒否の考え方」第1章2節より）

まとめると、「子どもの性格に問題がある」「その性格は親の育て方が原因」「不登校は心の病→治療が必要」という考え方です。

■ どの子にも起こりうる

それが、1992年に出された「学校不適応対策調査研究協力者会議」の最終報告で、次のように説明されました。

登校拒否はどの子にも起こりうるものである、という視点に立って登校拒否をとらえていく事が必要であるということである。（中略）つまり、登校拒否は特定の児童生徒の特有の問題があることによって起こるといったパターン化して予測されるものではなく、児童生徒がある程度共

通して潜在的にもちうる「学校に行きたくない」という意識の一時的な表出として登校拒否となるケースもあるという事である。（4章-1）

こうした考え方は、今日まで変わりません。実に今から26年前のことです。しかし、

文科省の認識が変わっても、社会や学校には「不登校は子どもの性格や親の育て方が原因」という考え方がまだまだ根強くあります。なぜでしょうか。例会で話を聞く中でその理由が分かってきました。

（次号に続く）

シンポジウムに50人の参加

7月15日（日）に「ひきこもりを考えるシンポジウム」が開かれました。講演のあとシンポジウムがあり、ひきこもりの当事者への自立支援のあり方や自立のための社会的資源について幅広く学ぶことができました。



■ ひきこもっている息子は、まだまだエネルギーを溜めている状態だと思います。第三者の方（支援者）と会ってほしい、動かそうという思いは、本人にも伝わっていると思います。タイミングがむずかしいです。会っても良いという本人の意思が大事なのでしょうが…まだ、息子からは何も無いです。待つためには、星の会などの親の会につながっていることが大事なのだと再確認しました。

■ 支援者に会わせようと必死にもがいている自分に気づくことができたように思います。支援者任せでなく、会ってもらえるような雰囲気作りを家の中でできたら良いなと思いました。一日の中で一回は笑えるような環境って大切ですね。

■ 何度も例会やイベントに参加させていただき、その度に勉強になるのですが、また日常に戻るとすぐに忘れてしまいます。今後も参

加させていただきたいと思います。

■ 笑えるエピソードとかも含めつつのシンポジウムだったので楽しく聞けました。やはり、経験者の方のお話は、説得力があります。不登校の子どもと発達障がいの子がいるので、今後の子育てにおいてとても参考になりました。

■ 改めて、息子の対応について再認識させられました。若者の支援がたくさんあることが分かり、役に立ちました。

■ とてもわかりやすいお話をありがとうございました。「家族として幸せになるために、ふつうの生活をする」ということに「なるほどなあ」と思いました。支援者が訪問するにあたって、親に求められることのお話も大変参考になりました。

（アンケートより抜粋）

9月の例会予定

- 昼の大分例会…9月1日（土）13:00～16:30
- 別府例会…9月1日（土）19:00～21:00
- 豊後大野例会…9月13日（木）19:00～21:30
- 津久見例会…9月14日（金）19:30～22:00
- 夜の大分例会…9月21日（金）19:00～21:30
- 湯布院例会…9月27日（木）19:30～21:30
- アンダンテ星の例会…9月30日（日）10:00～12:30

会報発送作業

- 日時：8月23日（木）14:00～
- 場所：明治明野公民館視聴覚室
- お尋ねは河野さん
（080-5272-9360）まで

会報発送のボランティアを募集しています。協力していただける方は河野さんまで連絡をください。